

視 察 報 告 書

報告者氏名：ひろなか信太郎

委員会名：総務常任委員会

期 間：令和6年10月22日(火)～令和6年10月24日(木)

視察都市等：東京都狛江市
愛知県岡崎市
岡山県倉敷市

視察都市等及び視察項目：

狛江市 総合的な主権者教育計画について

岡崎市 まちづくり戦略について

倉敷市 住民情報システムガバメントクラウドについて

所 感 等：

■東京都狛江市

「総合的な主権者教育計画について」

10月22日(火)に、横須賀市議会総務常任委員会として東京都狛江市に視察に伺ったことは、非常に意義深い経験でした。狛江市が展開している「狛江市総合的な主権者教育計画」は、地域全体が一体となって主権者教育を進める取り組みであり、特にその包括的なアプローチに感銘を受けました。地域の子どもたちが自らの権利と責任を理解し、主体的に社会に参加することを促すこの計画は、今後の地域社会形成において重要な役割を果たすと確信しています。

○視察のポイント

狛江市の主権者教育計画は、選挙管理委員会だけでなく、子ども関連部局、福祉関連部局、企画財政関連部局といった多様な部局が連携して進められています。このような多角的なアプローチは、教育の質を高めるだけでなく、地域全体の意識を高めるために非常に重要です。特に「体験」と「情報」という2つの側面から事業を展開している点が印象的でした。具体的には、子どもたちが実際に選挙に参加する体験を通じて、政治に対する理解を深める活動や、情報を提供することで自ら考える力

を育むプログラムがありました。

さらに、狛江市では地域住民との対話を重視しており、主権者教育に関する意見交換会やワークショップを定期的に行っています。このような取り組みは、地域住民が自らの意見を反映させる機会を提供し、地域の絆を深める重要な要素となっています。これらの施策は、選挙権を持つ市民としての自覚を育てるだけでなく、地域社会の中での役割を理解させることにも繋がっています。

○所感と学び

狛江市の視察を通じて、「教育は地域の力である」という考え方を強く実感しました。地域全体が協力し合い、子どもたちに必要な知識や経験を提供することが、未来の主権者を育てる上で不可欠であると感じました。また、主権者教育の普及には、子どもたちだけでなく、家庭や地域住民が共に学び合う環境を整えることが必要であり、この視点は介護現場の改善や発展にも通じるものであると考えます。

○まとめ

狛江市での視察を通じて得た知見は、横須賀市における地域のさらなる改善と発展を目指す上での貴重な参考になります。

地域全体の協力を促進し、主権者教育の重要性を再認識することができました。今後は、狛江市の取り組みを参考にしながら、横須賀市においても多様な部局の連携を図り、地域のニーズに応じた政策提言を行っていく所存です。引き続き、地域社会の声を大切にし、共に学び、成長する環境を整える努力を続けていきたいと思えます。



■愛知県岡崎市

「まちづくり戦略について」

○所感等：

10月23日（水）、愛知県岡崎市に視察に伺いました。今回の視察では、乙川リバーフロント地区における「QURUWA戦略」を中心に、同市のまちづくりに関する取り組みを学ぶ機会を得ました。岡崎市が進める公民連携によるまちづくりは、地域の特性を生かしつつ、地域住民や民間企業が積極的に参加するモデルケースとして非常に興味深く、私たちの地域でも応用できる可能性を感じました。

○視察のポイント

岡崎市の「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画-QURUWA戦略-」は、地域の公共空間を「Q」の字で結ぶことで、区内の回遊性を高め、地域の魅力を引き出すことを目的としています。この戦略では、行政主導型から民間主導・行政支援型へと転換し、地域全体での協力を促進することが重要視されています。

具体的には、乙川リバーフロント地区内における豊富な公共空間を活用して、さまざまな公民連携プロジェクトが実施されています。例えば、地域のイベントやワークショップを通じて、住民が主体的に参加できる機会を設けています。これにより、地域住民の意識を高め、地域の絆を深めるとともに、外部からの訪問者をも引き寄せる効果が期待されています。

また、岡崎市では、地域資源の活用も積極的に進めており、乙川の美しい景観を活かした観光資源の開発や、地域の特産品を利用したマーケットの開催などが行われています。こうした取り組みは、地域経済の活性化にも寄与しており、住民の暮らしの質の向上やエリアの価値向上に繋がっています。

○所感と学び

今回の視察を通じて、岡崎市の取り組みが示すように、地域の活性化には多様な主体の協力が不可欠であることを改めて実感しました。特に、民間の知恵や資源を活用し、行政がそれを支える形でのまちづくりは、地域の持続可能な発展を促進する上で非常に効果的です。また、地域の公共空間を利用した新しい形のイベントやプロジェクトが人々を引き寄

せ、地域の魅力を高めることに繋がる点も大変参考になりました。

さらに、地域住民が自らの意見を反映させる場を設けることが、地域のコミュニティ形成においても重要です。岡崎市では、住民参加型の意見交換会やワークショップが定期的に行われており、地域住民が自らの意見を積極的に発信できる環境が整えられています。このような取り組みは、地域が一体となってまちづくりを進めるための重要な要素であり、横須賀市においても同様の施策を検討する必要があると感じました。

〇まとめ

岡崎市での視察を通じて得られた知見は、横須賀市におけるまちづくりや地域活性化に向けた貴重な参考となります。「QURUWA 戦略」は、地域の公共空間を活用し、民間の力を引き出すことで、まちづくりを進める新たなアプローチを示しています。今後、横須賀市でもこのような視点を取り入れ、地域の特性を活かしたまちづくりを進めていくことが必要です。

具体的には、地域住民の参加を促進し、公共空間を有効に活用することで、地域の活性化を図るための施策を検討することが重要です。また、地域の声をしっかり反映させるために、意見交換の場を設け、住民のニーズに基づいたまちづくりを進めていくことが求められます。

今後も、岡崎市の成功事例を参考にしつつ、横須賀市の特性に合った施策を模索し、地域の発展に寄与するために努力していきたいと思います。地域の声を大切に、共に学び、成長する環境を整えることが、私たちの目指すべき方向です。



■岡山県倉敷市

「住民情報システムガバメントクラウドについて」

○所感：

10月24日（木）、岡山県倉敷市に視察に伺いました。倉敷市が2023年1月に全国初の稼働を果たした住民情報システム「ガバメントクラウド」の導入は、行政サービスの向上や業務効率化に向けた重要な一歩であり、非常に刺激的な取り組みであると感じました。この視察を通じて、デジタル化による行政の革新が、地域の住民サービスにどのように寄与するかを学ぶことができました。

○視察のポイント

倉敷市の住民情報システム「ガバメントクラウド」は、行政サービスの向上と行政事務の効率化を目指して導入されたもので、業務プロセスの標準化と共通化を実現しています。このシステムは、従来のカスタマイズ型から脱却し、標準仕様に基づくことで、柔軟性と効率性を兼ね備えたものとなっています。

特に注目すべきは、全国に先駆けてこのシステムを導入したことで、他の自治体に対してモデルケースとなる可能性がある点です。倉敷市では、住民情報の管理やサービス提供が一元化され、情報の透明性と安全性が向上しています。これにより、住民からの問い合わせに対する迅速な対応が可能となり、より良いサービスを提供できる環境が整っています。

また、システムの導入に際しては、職員の研修やシステム運用のノウハウの蓄積にも力を入れており、業務の効率化を図るための具体的な施策が実施されています。このような取り組みは、他の自治体でも参考にできるポイントが多いと感じました。

○所感と学び

倉敷市の視察を通じて、デジタル化がもたらす行政の革新について深く考えさせられました。特に、業務プロセスの標準化や共通化の重要性を再認識しました。これにより、行政サービスの質を向上させるだけでなく、業務の効率化も図ることができるという点は、横須賀市においても非常に重要な利点です。

また、住民情報システムの導入によって、住民とのコミュニケーションが円滑になり、地域のニーズに迅速に応える体制が整うことの意義を強

く感じました。今後、横須賀市においてもデジタル化を進める際には、倉敷市の成功事例を参考にし、業務の効率化と住民サービスの向上を同時に目指す必要があると考えます。

○まとめ

倉敷市での視察を通じて得た知見は、横須賀市における行政サービスの向上や業務効率化に向けた貴重な参考となります。「ガバメントクラウド」の導入は、地域の特性を生かしつつ、住民にとっての利便性を高めるための重要な施策であり、今後の横須賀市の行政施策においても、このような革新的な取り組みを進めていく必要があります。

具体的には、業務プロセスの標準化や共通化を図り、職員のスキル向上を目指すことで、より良いサービスを提供できる体制を整えていくことが求められます。引き続き、地域の声を大切にしながら、デジタル化による行政の革新を進め、住民の期待に応える努力を続けていきたいと思っております。



■全体を通して

横須賀市議会議員として狛江市、岡崎市、そして倉敷市へ所管事務調査の一環で視察する貴重な機会を得たことは極めて有意義な体験でした。この度の訪問では各市の取り組みを直接目の当たりにし、学ぶことが多く、肌で感じることができました。

この学びをもとに、今後、一人でも多くの市民の生活改善につながるような提言・改善策の推進につなげていく所存であります。各都市との

接触は、それぞれの問題解決に対する取り組みの本質を思い描く助けになりました。これからも、より良い横須賀市を創り上げるため、全力を尽くします。